

令和3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493100547	事業の開始年月日	令和2年2月1日
		指定年月日	令和2年2月1日
法人名	医療法人 裕徳会		
事業所名	グループホーム にじいろ港南台		
所在地	(〒234-0054) 横浜市港南区港南台7-9-41		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	令和4年2月16日	評価結果 市町村受理日	令和4年5月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの弱みである、医療面・災害面・設備面に力を入れていて、ご自分らしく長く生活していただける施設を目指している。
時代の変化を楽しみ常に成長し続けていける施設を目指している。
地域の繋がりを大切にしている、関わる方全ての人を価値のある対等な人であると考え、少しでも人の役に立ちたいという精神を持って運営をしている。
また、一番の資源である職員を大切にしている、職員の特徴や価値観を大切にしたマネジメントを行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和4年2月28日	評価機関 評価決定日	令和4年4月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】
この事業所は、JR京浜東北根岸線・港南台駅から徒歩約15分、最寄りの港南台第一中学校前バス停からは徒歩1分でバスの便も良い。周囲は古くから開発された公団住宅群で、広い歩道や街路樹があり、よく整備されている。設置法人は医療法人祐徳会(港南台病院)で、地域の高齢者の役に立ちたいとの思いから令和2年2月に法人初のグループホーム(3ユニット・定員27名)として開所した。RC構造の3階建てで、各階の機械浴設備、理美容専用の洗面台、全室Wi-Fiを完備し、見守り支援システムを導入するなど設備が充実し、内装も「和モダン」なデザインとしている。
【常に理念に立ち返る利用者を尊重した支援】
理念実践のために管理者と職員で具体的な行動指針を策定した。丁寧に利用者の意向の把握に努め、日々の対応が身体拘束や虐待に当たらないか、常に理念に立ち返り職員同士で確認し合っている。さらに基本理念の「新しい発想、チャレンジ精神」に沿って、施設名「にじいろ」の由来である医療など7職種のほか、障害・児童などの他分野とも連携できる新しいスタイルの事業所を目指し、障害者施設入所者の方が描いたイラストを事業所のロゴマークするなど、試行している。
【職員がやりがいをもって働ける就業環境と人材育成】
管理者は、各ユニットのリーダーに一定の裁量権を与えている。ステップアップを見据え、報奨金を出すなどして研修受講・資格取得を奨励し、経験に応じた役割を与えている。病院受診の際は治療費補助など医療法人ならではの制度もあり働きやすい環境が整備されている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームにじいろ港南台
ユニット名	梟ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に日々実践に繋がるよう努力している。	設立時に設置法人本部と管理者で、基本理念「高齢者に楽しい日々、明るい未来を創造してもらう為に新しい発想のもとチャレンジ精神を持ち、介護業界のビジネスモデルとなるべくアイデンティティーを持った施設にする」を定め、「全ては入居者様・御家族様のために」として「尊厳の保持」「医療連携」など7項目にわたる具体的なミッションを明文化している。令和2年12月にはさらにわかりやすい行動指針を職員と話し合って策定した。理念等は所内に掲示し、悩んだり迷った時には常に理念に立ち返り、理念を意識して仕事をするよう研修で周知している。理念に沿った支援になっているか、常に管理者と職員で確認し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為外部との関りは控えている。	開所時には設置法人本部職員が地域に挨拶に回って開所式に招待し、当日は地域のラーメン店に餃子の提供を依頼した。ホームの駐車場で地域の方にも参加してもらいヨガを実施するなど、広く地域との良好な関係作りに努めている。令和4年5月から老年看護実習で看護実習生17名（8クール約2名ずつ）を受け入れる予定がある。現在はコロナ禍で休止しているが、フラワーアレンジメント指導のボランティアの来所や、近隣保育園との交流がある。コロナ禍では、利用者は敷地内を歩いたり、職員と郵便局に行くくらいで、散歩に出る頻度も低く、現在、地域の方と会う機会に乏しい。町内会の担当者が変更した後、連絡を控えている。	新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いた後は、地域の町内会等との関係づくりを再開することを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為外部との関りは控えている。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、開催が出来ていない。	管理者は、運営推進会議の初回は先ずホームのことを理解してもらうため、対面で開催したいと考えていたが、令和2年の開所当初からコロナ禍にあり、実現できていない。民生委員、家族代表、利用者の成年後見人のうち1名、隣接の法人内居宅介護支援事業所の管理者に委員として参加してもらう了解を得ている。今後は、上記委員と、管理者、利用者、地域包括支援センター職員で令和4年3月に開催する予定であり、港南区役所にも報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	同施設内の居宅介護支援事業所と連携し、地域包括支援センター・ケアプラザの職員へ事業所内のサービス内容やご入居者様のご様子などを伝えている。	日頃から横浜市健康福祉局介護事業指導課地域密着型サービス担当に電話をして、諸手続きや処遇改善、新年度からの加算要件など不明なことを確認している。区役所高齢・障害福祉課、保険年金課には介護保険認定の更新や区分変更の手続き、期限切れ保険証の返却等で訪問しており、書類提出時に資料をもらったりしている。各ユニットに1名、生活保護受給者がおり、生活支援課担当者が来訪している。横浜高齢者グループホーム連絡会に加入し、研修や事例検討会で情報交換をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束になる行為を行わないよう、委員会を中心に研修を行い、意識している。	運営規程に身体拘束等の適正化に向けた取組みが明記されている。「身体拘束廃止に関する指針」が整備されており、高齢者虐待防止対応・身体拘束廃止委員会を3カ月に1度開催している。利用者の安全や清潔を保つためにしている対応が身体拘束に当たらないかを具体的に検討している。「高齢者虐待防止対応・身体拘束廃止研修」を年2回計画し、1回目は、令和3年7月に虐待防止、身体拘束、アンガーマネジメントをテーマに実施した。2回目は、令和4年3月に予定している。入職時にも管理者から研修をしている。各階に相談室があり、ドアの小窓などからフロアの様子を見ることが出来る。見守り支援システムを活用することで、全利用者の睡眠状況のデータが得られ、睡眠導入剤の減薬につながった。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待へと繋がるような声かけや介助等が起こらないよう普段から職員同士で意識して注意しあっている。	「高齢者虐待防止対応・身体拘束廃止」委員会を3カ月に1度実施している。委員会は身体拘束廃止と合わせ職員会議で実施し、欠席者は資料を確認して署名している。「高齢者虐待防止対応・身体拘束廃止研修」を年2回実施している。神奈川県の高齢者虐待防止に係る一斉点検の通達に従い、自己点検シート（チェックリスト）により実施・分析を行い改善している。職員は、不適切なケアではないかと互いに言い合える環境が虐待防止につながるとの共通認識をもって互いに注意し合い、管理者が各フロアを頻回に巡回して職員の支援の様子を確認し、些細なことでもユニットリーダーと共有して虐待防止に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては、対象となる方には適宜お話しをさせていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	しっかりと出来ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して要望の聞き取りができるようにしている。苦情係を中心にいただいた意見を全員で共有している。	玄関に、意見箱を設置しているが意見が入ったことはない。家族には、なるべく直接話してもらおうよう依頼している。運営推進会議のメンバーに家族の代表がいる。各ユニットから1名の職員で構成される苦情委員会があり、苦情報告書の内容について原因・解決策を検討し、職員に周知して改善している。家族からの要望やクレームがあった際は、良い事も悪い事も現場を見てもらい理解を求めている。衣類の洗濯方法について意見があった際に居室で現物を見ながら確認し合った事例がある。意見には感謝し、管理者を中心に適切な初期対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	小規模であるので全職員で運営をしている。ユニット毎に権限を持ってもらい、自分たちで創造をしている。また、何かを決定する際は、職員の意見を大事にしている。	コロナ禍で全員集合しての職員会議はしていないが、管理者とユニットリーダーは話しやすい雰囲気づくりに努め、連携して職員の意見を収集している。管理者は職員に「責任は取るので明確な根拠があれば何をやっても良い」と伝え、職員の提案に対して課題も指摘しつつ、レクリエーションで必要な機材を購入するなど、積極的な実施を奨励している。職員の提案を受けて、一回の入浴ごとに湯を入れ替えるように改めた事例もある。職員がやりたいこと、困っている事から改善する事を基本にしている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の参加や役割を与えるなど向上心を持って働けるよう努めている。	管理者は職員の勤務状況をシフトや出勤簿等で把握している。残業は事前申告制とし、ユニットリーダーに20時間までの裁量権を与えている。サービス残業はせず、残業の実態を明らかにして業務改善につなげるように伝えている。36協定が締結され、現状、残業は10時間以内にとどまり休暇も取れている。健康診断および厚生労働省のフォーマットを活用したストレスチェックを実施している。設置法人の病院を受診した場合に全額医療費の補助が受けられる制度がある。4月、10月に自己評価をしてもらい、ユニットリーダー、管理者が評価し、賞与に反映する仕組みがある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を促し、苦手な分野のトレーニングができるようサポートしている。	介護福祉士の資格はスタンダードと捉え、その他の認知症ケア専門士や喀痰吸引等研修、認知症介護実践者研修などの資格取得・受講を奨励し、報奨金を出したり、資格手当を増額している。外部研修参加の際には、事業所の中で伝達し、活かしてもらう事を条件に、職務としての受講を認め、交通費・参加費用を事業所で負担している。新人教育はユニットリーダーが「OJTシート」の段階に沿って行っている。経験者は、計画作成担当やサブリーダー、ユニットリーダーへとステップアップしていけるよう、管理者が適性を見極めながら研修の参加を勧め、役割を担ってもらっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍の為、中々取り組みは行えていない。 法人内でANAの接遇研修を開催したり、横浜市グループホーム連絡会との会合に参加はしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問しアセスメントを行いニーズの把握をし、全員が閲覧できるようファイリングして共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問しアセスメントを行いニーズの把握と細かな説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時にご本人様とご家族様に必要なサービスを第一にアドバイスをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築けるよう、会話を促したり共にレクリエーションを行ったりしているがまだ築けているとは言えない。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何名かの方は築けているが全員は行えていない。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ではあるが3密に気を付け出来る限りの事は実施しているが、オミクロン株が流行している現在は、外出や面会はできていない。	コロナ禍の感染状況を見極めながら、面会制限の基準は臨機応変に変更している。家族と自宅に帰り近隣の方と交流した方、正月を家族と一緒に過ごした方、キーパーソン以外の家族や孫の来訪がある方、家族と墓参りや外食をした方、故郷に帰る計画を立てている方などがいる。年賀状が何通も届く方や、以前の職場の同僚から電話がある方があり取り次いでいる。新聞、小説、週刊誌を読んだり、編み物、数字の計算を楽しむ方がいる。各々、個別のアクティビティとして取り入れたり、家族に雑誌の購入・持参を依頼するなど、以前からの趣味や習慣が続けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している方がいないよう職員が仲介し会話を促している。また、全員を巻き込んだレクリエーションや得意なことをやっていただけるよう提供し、コミュニケーションをとるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去理由はご逝去が多いが、ご家族様との継続的な繋がりは大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人に聞き取りを行ったり、職員同士で話し合っご本人のペースや希望に沿った支援ができるよう努めている。	利用者の思いや意向を把握するため、まずは、職員が自己開示しながら共通点を見つけ、信頼関係を構築し、話を深めて行くようにしている。言葉が理解しづらい方には写真や映像を見せ、反応を見て判断している。声の大きさやトーンに配慮したり、「はい」か「いいえ」で容易に答えられる質問の仕方をするなど工夫している。家族から本人の趣味などの情報を聞き取って参考にしてている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルや聞き取りを用いて生活歴や興味のある事を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1、2カ月毎にフロア会議を開催し情報の共有、分析をしている。また日々の申し送りの中で些細な変化や気づきを共有している。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者、居室担当、フロアリーダーでモニタリングを行いそれぞれの気づきが介護計画に活かされるようにしている。家族と本人の希望が反映されるように努めている。	管理者と生活相談員が本人を訪問し、アセスメントをし、入居判定会議を経て入居となる。入居時は大まかな介護計画を立て、1～2カ月後に様子を見て、再度利用者に即した介護計画を作成している。短期目標は3カ月、長期目標は6カ月でモニタリングを実施して更新し、入院など状態変化があれば随時見直している。サービス担当者会議は、ユニットリーダー、計画作成担当、居室担当職員で実施している。週2回来訪する訪問看護師に医師に聞きたいことを伝えて聞いてもらったり、情報交換をしている。管理者が月2回の協力医の訪問診療に立ち会って助言を得ている。歯科衛生士や管理栄養士に利用者の食べる姿勢や様子を画像で見てもらって指導を受けている。記録等はシステムで管理・共有しており、メッセージ機能を使って随時職員間で共有・意見交換ができる仕組みがある。記録の内容は、介護計画と明確に連動していない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かな記録を行い、データや口頭で共有するようにした上で、モニタリングや会議を行い支援の方法を見直すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズを1番に考え個別の対応をするよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行えていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	港南台病院や馴染みのかかりつけ医と連携をとり支援している。	協力医が月2回訪問診療に来訪している。歯科医と歯科衛生士は週1回来訪し、口腔ケアが主であるが痛みがある時などは臨時に対応してくれる。協力医以外の循環器科へ3ヶ月に1度通院する方がいる。通院の同行は家族がしている。受診後にデータをもらい、話を聞いた職員が記録している。処方箋はホームのかかりつけ薬局にファックスをしている。看護師の常駐は令和3年8月に中止し、現在は訪問看護師が週2回来訪して体調管理をしている。設置法人である港南台病院や同法人の訪問看護ステーションと24時間連絡が取れる体制がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	港南台病院や訪問看護ステーションに24時間連絡できる体制をとって、相談・報告がいつでもできるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	港南台病院と連携をとって行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針を説明している。また、日頃から主治医、薬剤師、看護師と連携をし、都度状況を報告し、ご家族様やご本人様の意向を確認している。	重度化した場合における対応にかかる指針、看取り介護（ターミナル）の指針が整備されている。入居時に指針に沿って看取りの方針、緩和的医療行為等について家族に説明するほか、利用者の状態に合わせその都度意向を確認している。看取り介護実施時には、医師が家族に説明しターミナルケアについての同意書を交わして、家族全員で齟齬の無いように、よく話し合うよう助言している。職員は日常生活の会話の中で少しずつ本人の意思を確認している。開所直後に重度の方が、病院から移られてすぐ亡くなる例があったが、その後、看取りの体制を整え、2名の看取りを行った。好きな音楽をかける、体位を変えて皆がいるフロアが見えるようにする、臭いへの対応に配慮するなど、居室の環境を整備した。家族には夜間も含め、いつでも来訪してもらい、職員の声かけを増やし、エンゼルエアも行った。年1回終末期ケアの研修を計画しているが、ターミナルケアに入る前にも研修を実施した。管理者、ユニットリーダー、生活相談員は外部研修にも参加し、他の職員に伝達している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や指導を行っているが、身につけているとは言えない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者筆頭に年2回の訓練に準ずる事は実施しているが、コロナ禍のため、地域での協力体制は築けていない。	防災訓練は年2回計画しており、令和4年3月に2回目を予定している。日常用のチルド食品は、2～3週間前に発注して食事予定日の数日前に届く仕組みのため、災害時はストック分を使用することができる。1階の食品倉庫に水、ガスボンベ、蓄電池、充電式吸引機など災害用備品を備蓄し、コロナ対応用の手袋やガウン、N95マスク、消毒用アルコールなどの衛生用品も準備している。被災想定区域には該当しないが、風水害、地震を想定し、職員も交えてBCP（事業継続計画）の再策定の作業を開始している。地震に備え、家具の転倒や落下物について、利用者の居室の安全性を日頃からチェックしている。屋外を含め16か所に防犯カメラを設置し、各所の様子が見られる。事務所に火災通報専用電話機を備えている。災害時の地域との協力体制はまだできていない。夜間想定での防災訓練はまだ実施していない。	災害時に地域の協力が得られる体制づくりと共に、夜間を想定した防災訓練の実施が望まれます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を大切に、尊敬の気持ちを持って対応するよう心掛けている。	管理者は、「高齢者・児童・障害者を問わず自分と対等で価値があること」「敬意を持って対応すること」「誰も見ていないところでもきちんと対応できる一流の介護士になってほしいこと」を職員に伝え、各フロアを巡回して職員の支援の様子を確認しながら、自身の関わり方を見せている。支援方法を変更する際には、職員の負担軽減のためではなく利用者が自分らしく過ごしてもらうために、利用者のためになるか、自分が利用者だったらどうかを基準に判断するよう職員に伝えている。居室の扉は開け放さず、暖簾をかける、ノックして入る、個人情報などを大きな声で話さない、排せつ介助時にはなるべく外で待ってタイミングを見て声をかける、など留意している。訪問時も丁寧な言葉で利用者の意思を確認している姿が見られた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己+C80:C81決定できるように働きかけている	本人にとって良い方法や希望に沿えるよう聞き取りや普段の会話の中で思いを汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが無理強いせず本人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服を選んでもらったり、整容行為が安全にできるよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、食器洗い、食器拭き等個別で得意なことが違うため得意なことを行っていただけよう支援している。	配食業者の献立付きチルド食品（湯煎調理）を利用している。米は職員が炊き、味噌汁もホームで作って提供している。ミキサー食など利用者に合わせて食形態で提供している。パンが好きな方には、近隣のパン屋で購入して提供することもある。水分補給量の少ない方や食が進まない方には、好きな飲み物やふりかけを提供するなど工夫している。食事レクとして、たこ焼き、ホットケーキ、お好み焼きを一緒に作ったり、誕生日には手作りケーキを提供している。行事の日にはメニューの希望を聞いて弁当を注文したり、寿司の出前を取ったりしている。できる方は盛り付け、食器洗い、食器拭きをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の見直しを行い本人にとって最も食べやすい状態で提供している。個別で好きな飲み物を把握し水分を摂取していただけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科から指導を受け適切な口腔ケアを行えるよう支援している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄ができるよう促すようにしているがまだ努力が必要である。	「排泄表」で排尿・排便のパターンを把握し、定時やその方のタイミングに合わせて誘い、トイレでの排せつを支援している。失禁があるからとすぐりハビリパンツを勧めたり、立位でトイレを汚さないために座ってもらったりしない、排便状況を職員がトイレに入って確認するのではなく本人から伝えてもらうなど、自尊心やプライバシーに配慮している。利用者が動きやすいよう身体に合ったサイズのオムツや改良された薄いパッドを選ぶようにしている。自分でパッドを取り替えようと探す方のためにパッドを取りやすい位置に置いている。夜間はパッドのサイズを変更して、交換の回数を減らし利用者の安眠を優先している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝一番に冷たい飲料を提供したり、毎日運動をしていただいたり工夫はしているが予防はできていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のお誘いをし、拒否があった場合は無理強いせず時間を空けたり日にちを変えたりして気持ちよく入浴していただけるように努めている。	週2回、午前または午後に入浴をしている。順番や時間帯は希望を聞きながら調整している。異性介助や同性介助の希望に応じている。時折、入浴剤を使用して気分転換をしている。入浴を好まない方には、一度外に出てみたり、別日に再度誘うなどしている。無理強いせず、その時間は、別のことで有効に使うようにしている。各階に機械浴の設備を備えている。1階の設備では寝たまの姿勢で入浴ができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアで傾眠されていたり眠気が強い場合は無理せず仮眠を取っていただき、その後の時間を起きて過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルを用いて処方されている薬をいつでも確認できるようにし、個別に合った薬形態で服用していただけるように努めている。往診日に症状の報告をし指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの好みや得意なことをレクリエーションとして提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出は控えている。	コロナ禍では週に1回程度、職員と利用者2名ずつで、近隣を散歩している。車椅子の方も元気な方が押すなどして出かけている。外出が難しい方は、ベランダや駐車場で外気浴をしている。令和3年3月に公園での花見を予定していたが、悪天候で実施できなかった。自分の買いたい物やユニットで食べるお菓子を職員と一緒にコンビニに買いに行く方や、住んでいた家の周囲までドライブしに行く方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をもっておられる方にはご自身で管理できるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との連絡希望があれば繋げるよう支援をし、家族からの電話があった場合も少しでも話せるよう提案、声かけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な生活環境にならぬよう気を配っている。レクリエーション等と一緒に作成した季節の飾りをフロアに飾って季節感を味わっていただけるように工夫している。	リビングは落ち着いた色調の照明で明るく、広々として開放的である。天気の良い日は、室内から富士山が見える。天井の一部にアクセントカラーを配し、障子風の小窓やフロアによって異なるデザインの木工の組子の玄関扉により「和モダン」でおしゃれな空間となっている。加・除湿機能が付いた空気清浄機器を設置し、1日に3回程度、定期的に換気をして空調管理をしている。食事中はテレビを消しBGMを流している。春には雛人形を飾るなど、季節を感じられるようにしている。ユニットごとに職員と利用者で相談して室内の装飾をしている。玄関先にはプランターを置き、利用者と職員の有志が花を育てている。日常清掃は介護補助の職員と介護職員が共同で毎日行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの人と近くの席になりいつでもお話ができるよう、またいつもと違った場所で過ごしたいときにそれが叶うよう席の配置を変えたりなどして工夫をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていたものを持ち込んでいただいたり、本人にとって必要なものは家族に持ってきてもらえるよう依頼している。	各居室は広めの設計となっており、洗面台も設置されている。ベッド、エアコン、防炎カーテン、照明はホームで備えている。利用者は、家族の写真や好きな絵、椅子や机、テレビ、衣装ケース、ぬいぐるみなど馴染みのものを持ち込んでいる。経年劣化によって、いくらか不具合があっても、利用者が使い込んだ整理ダンスなどを置いている。居室でクラシックCDを聞く方もいる。部屋替えができるように、部屋に表札はつけていない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内やリビングの環境について工夫をしている。		

事業所名	グループホームにじいろ港南台
ユニット名	翡翠ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で確認し、共有出来るように努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為現在は交流できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為現在は交流できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	HPなどにお気軽にご相談くださいと記載し気軽に相談できる場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	同施設内の居宅介護支援事業所と連携し、地域包括支援センター・ケアプラザの職員へ事業所内のサービス内容やご入居者様のご様子などを伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間職員が1人になるとき以外は施錠しないようにしている。ユニット会議で決定した個人対応表を作成し、理解を深めている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時全身を観察常時行なっている。事故・虐待防止委員会を定期的に行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては、対象となる方には適宜お話しをさせていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明対応している。不安不明な点があるかなど尋ねている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様ご家族様の意見はユニット会議で話されているが、意見は少ない。苦情委員会からの意見も少ない。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議で意見を聞き、話した内容を施設長に伝え反映している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握して環境の整備に努めている。役割を与え研修できるように努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の情報提供、研修を受ける機会を進めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍の為、中々取り組みは行えていない。 法人内でANAの接客研修を開催したり、横浜市グループホーム連絡会との会合に参加はしている。		
のた					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本は普段の関わりから聞き取るようにしている。個人ファイルからも情報を得て安心に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様の思いや意見を聞き常に連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様にご自身の洗濯物を畳んでいただいたり、茶碗拭きなどをしていただき協力しながら生活をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全員は行えていない。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ではあるが3密に気を付け出来る限りの事は実施しているが、オミクロン株が流行している現在は、外出や面会はできていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゲームやレクなどを全員で行なったり入居者様同士が会話できるような席にしている。会話がなない場合は会話のきっかけをスタッフが関わって作るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても関りを大切にしている。亡くなられた方のご家族様も来訪されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりや声かけで把握し入居者様本位のケアに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の思いを聞きユニット会議で意見交換している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の身体状況やリズムを理解し言動表情などから理解するよう努めている。1ヶ月に1回ユニット会議を開催し意見交換情報共有している。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の思いやご本人様の思いを聞き、ユニット会議を開催し共有し計画作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子や気づきなどを記録に残している。朝夕の申し送り、モニタリング、会議を行い支援の方法を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様を1番に考え必要に応じた支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍であまり行えていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に診て頂いている。整形や訪問歯科にも診て頂き連携をとり支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院と訪問看護と常に連携して24時間対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には病院と連携情報提供しご家族様と連携し安心して暮らせるよう努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には思いに添えるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しAED操作の確認や勉強会を行なっているが全ての職員が身につけているとは言えない。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者筆頭に年2回の訓練に準ずる事は実施しているが、コロナ禍のため、地域での協力体制は築けていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損なわないよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が決定できるような対応を心かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の希望に添えるよう、延食や入浴をずらしたりしてご本人様のペースを大切に柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などご自身で選んでいただいている。整容できるよう環境整備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時には食べたいものを聞き作るよう努力している。食器拭きを一緒に行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おひとりおひとりの体調、食事量水分量を把握し記録している。進まない方には声かけで対応している。水分はその時に飲みたいものを聞き提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや一部介助で行なっている。義歯の方は夜間ポリデントで消毒している。訪問歯科から指導を受け適切なケアを支援している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補充をしていただけるよう声かけを行なっている。体操を行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来る範囲で支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況や気分に合わせて休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の状況は共有できるようにしている。配膳時にはお名前日付氏名写真を確認して誤薬のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物、計算、将棋など好みの物を選んでいただき楽しんでいただいている。生活歴を把握し支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため控えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方には所持して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望で電話をできるように支援し、ご家族様からお電話が来た際には繋げられるよう支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のあるづくり、生活が出来るよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士の席配置をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身が使用していたタンスなどを居室に置いている。ご本人様の欲しいもの必要なものがあればご家族様に依頼している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせた環境整備に努めている。		

事業所名	グループホームにじいろ港南台
ユニット名	啄木鳥ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を掲示して理解し実践に繋がるよう努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	連携の案等はあるがコロナ禍の為、控えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、控えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、控えている。何か報告などがある際にはお電話でお伝えさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	同施設内の居宅介護支援事業所と連携し、地域包括支援センター・ケアプラザの職員へ事業所内のサービス内容やご入居者様のご様子などをお伝えしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束になる行為を行わないよう、委員会を中心に研修を行い意識している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がるような声かけや介助などが起こらないよう普段から職員同士で意識して注意しあっている。状態変化等で介助内容が変わった際は内容を見直しその方にあった援助が出来るようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては、対象となる方には適宜お話をさせて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様の来訪時やお電話、お手紙等で説明し理解して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して要望の聞き取りが出来るようにしている。苦情係を中心に頂いた意見を全員で共有している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット毎の会議の際や、個々に話を聞き意見を発信する機会を設けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や労働時間を把握し業務等が多くなりすぎないか注意を払っている。また研修や役割を持って頂き向上心ややりがいを持って働いてもらえるよう努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加や個人的に面談をし苦手や大変に思っている事を聞き業務の改善や指導を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍の為、中々取り組みは行えていない。 法人内でANAの接客研修を開催したり、横浜市グループホーム連絡会との会合に参加はしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問しアセスメントを行いニーズの把握をし、全員が閲覧できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問しアセスメントを行いニーズの把握と細かな説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時にご本人様とご家族様に必要なサービスをアドバイスしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まだ全員の方と完全に築けているわけではないが、日頃から関係を築けるように会話やその方の好きなことなどで過ごす時間を大事にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化やその方に必要な物等をお電話で伝え良好な関係を築けているがまだ全員は行えていない。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様やご家族様から情報を頂けて実施可能な事は行えているがまだ一部しか行えていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性等を把握し食席などを考えている。普段から積極的に会話やレクリエーションを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御退去理由はご逝去が多いが、ご家族様との継続的な繋がりを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様やご家族様から聞き取りを行ったり、職員間で話し合いご本人様本位の支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルや聞き取り、普段の会話から生活歴、趣味を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1.2か月毎にフロア会議を開催し情報の共有、分析をしている。また日々の申し送りの中で些細な変化や気づきを共有している。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者、居室担当者、フロアリーダーでモニタリングを行いそれぞれの気づきが反映されるようにしている。ご家族様とご本人様の希望が反映されるようにして。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し申し送りで伝えている。記録や申し送りの内容をもとにカンファレンスを開催しモニタリングを実施しその方にあった支援を計画している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族に積極的に聞き取りを行いご希望に添えることは実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行えていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	港南台病院や馴染みのかかりつけ医と連携をとり支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	港南台病院や訪問看護ステーションに24時間連絡できる体制をとって、相談・報告がいつでもできるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	港南台病院と連携をとって行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針を説明している。また、日頃から主治医、薬剤師、看護師と連携をし、都度状況を報告し、ご家族様やご本人様の意向を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会、指導、研修等行っているが実際その時に対応できていない所もある。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	理解出来ている職員もいるが理解できていない職員の方が多いと思われる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どのご利用者様も人生の先輩である為、介助ではなくお手伝いさせて頂いていると謙虚な気持ちと尊敬の気持ちを持ち対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望等を聞き取りや普段の会話などからくみ取りご本人様が自己決定しその方本位になるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等時間が決まっていますこちらのタイミングでお誘いする事もあるがご本人様の意思を尊重し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や起床時に衣服を選んでいただいたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みやその方にあった食事形態をしっかりと見極めご提供している。準備や食器拭きなども手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人様にあった食事形態や食事、水分ともにその方が好きな物をご提供している。また、摂取量が少ない方はしっかりと記録に残し医療と連携している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。訪問歯科と連携し適切な口腔ケアの支援をしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツやパットをなるべく使用せずにその方らしくその方にあった排泄を心掛けているがまだ完全にできていない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療と連携し服薬でコントロールしているが数日出ない事が続く方が何名かいらっしゃる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の希望をお聞きし対応している。温度や同性介助等。拒否があった際は翌日などに変更しご本人様が入りたいタイミングで入って頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れているご様子が見受けられる時は臥床の声かけを行ったりしている。また、昼夜逆転を防ぐためにご本人様から合意を得られれば日中にレクリエーション等を行い活動して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を各階に置き確認が出来るようにしてある。服薬の変更があった際はしっかりと様子観察を行い、形態も含めその方にあった服薬の援助が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体レクリエーションの他にその方が好きな時間で過ごして頂いている時間を設けている。家事や手伝いが好きな方には役割の一つとして手伝って頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出は控えているがコロナが終息したらどこに行きたいか等を聞き取りしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご自身でお持ちの方はご自身で管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	イベントで写真を撮り手書きで一言添えて頂きご家族様にお渡ししたり、お電話があった際はご本人様と話をさせて頂けるかお聞きしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様同士の関係性を理解し食席を考えている。どのような事が気になる方なのか把握しその方にとって心地よい空間づくりを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段のご様子から会話内容や趣味、性格などを理解しその方にとって良い環境づくりを行っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた馴染みのあるものやご家族様の写真を置きご本人様が落ち着いて過ごせるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様が出来る事を大事にしその事がこれからも出来続けられる様に過大な援助はしない様 にしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム にじいろ港南台

作成日 2022/5/9

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた後には、地域の田内会等の関係づくりを再開することに期待する。	運営推進会議を起点に自治会や近隣住民の方と繋がっていく。	・2ヶ月に1回の運営推進会議の開催。 ・自治会の催しに参加する。	1年
2	35	災害時に地域の協力が得られる体制づくりと共に、夜間を想定した防災訓練の実施が望まれます。	防災委員会を立ち上げBCP計画の改定を促進し、仕組みを構築していく。	・年2回の効果的お話し合いの実施。 ・BCP計画をスタッフに巻き込み実態に近づけていく。	1年
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。